



清流NEWS

〒191-8686 東京都日野市神明1-12-1 Tel 042-514-8309
発行日 1月・7月

Vol. 132

発行
日野市
環境共生部
緑と清流課



水辺のある風景 日野50選
番外編 記憶に留めたい、訪ねてみたい水辺です。

① 谷地川を横断する日野用水

かつて日野用水上堰は谷地川に一旦落とした水を取水していました。洪水対策の改修後、谷地川はまっすぐに、そして深くなり日野用水は川を横断することになりました。かつての蛇行した谷地川は栄町5丁目と八王子市小宮の間に緑道として残っています。近くには日野用水の水量調整の石川堰があり、旧谷地川を多摩川へ流れています。この辺りは水量も多く川のような流れです。

② 段丘崖を流れる日野用水下堰

北裏川と言われ、日野宿を支えた用水です。甲州街道から普門寺の脇を通り日野第一中学校に向かうと緩やかな傾斜が続きます。この段丘崖に沿って日野用水が東へ流れています。地形と用水路の関係を残す貴重な場所です。日野宿再生計画により手すりなど景観にも配慮されています。



下流へ進むと水草も植えられ、小魚もみられます。



谷地川を横断する日野用水上堰

③ 消えゆく湧水―西平山八幡神社

西平山八幡神社も歴史ある湧水地で、湧水は周辺の畑にも利用されていましたが、横の坂道は、段丘を削って作りました。水脈が切れたのか、ほとんど湧かなくなりました。湧水そばには弁財天（鮫綾源から移設したと言われる）もあります。また湧水が復活してほしいものです。



西平山弁財天

④ 樹林の中を流れる用水

―落川交流センター―
向島用水の支線が落川交流センター南側を流れています。素堀の水路を樹木が覆い、住宅街の中とは思えないほどです。カワニナも生息しており、いつか自然のホタルが再生してほしいものです。



落川交流センター



連携事業

八王子市・日野市流域連携共同提言

(自然) みんなで浅川の自然や景観を大切にして、未来につなげます
 (人) 人と人のふれあいの輪を広げ、ふるさとの浅川を育てます
 (まち) 浅川の魅力を活かして、元気なまちをつくります

第12回 あさかわ写真コンクール ～しぜん・ひと・まち～



『あさかわ写真コンクール』は、八王子市と日野市との中央部を貫く浅川に、良好な流域の水辺環境を創出し、心豊かなまちづくりを目指すため、両市の連携事業として行っています。

皆様に支えられ、今年の開催で12回目を迎えることができました。四季折々の浅川の姿を切り取った写真が応募され、毎年新たな浅川の魅力を発見できます。皆様からの浅川の魅力あふれる写真をお待ちしております。

募集要項は以下の通りです。

募 集 要 項

募集期間 2023年7月1日(土)～2023年8月31日(木) (必着)

撮影範囲 浅川(北浅川)、南浅川とその源流 ※支流を除きます

応募条件

- ・横位置の写真であること。
- ・JPEG形式でファイルサイズが5MB以内であること。
- ・組写真でないこと。
- ・未発表及び他に応募していない、自分で撮影した作品であること。
- ・極端な補正、合成等の加工を行った作品でないこと。
- ・撮影のため環境に人為的な加工をするなど、生きものや環境にダメージを与えずに撮った写真であること。
- ・カラー、モノクロの区分はありません。

※プリントした写真での応募はできません。

部門 中学生以下の部、一般の部 **応募点数** 一人5点まで

応募方法 必要事項を明記してご応募ください。

【応募方法1】電子メールで応募

写真データ名を「作者氏名・作品名」に変更してメールに添付し、必要事項をメール本文に記入のうえ、下記メールアドレスまでお送りください。

【応募方法2】CD-R等で応募

写真データの入ったCD-R等に、必要事項を記載したファイル等を添付して、応募先までお送りください(持ち込みも可)。

応募先 191-8686 日野市神明1丁目12番地の1
 日野市緑と清流課 あさかわ写真コンクール担当 宛
 メールアドレス seiryu@city.hino.lg.jp

詳細な募集要項は、市のホームページをご確認ください。
 その他、詳細は緑と清流課までお問い合わせください。



第12回あさかわ写真
 コンクールポスター

〈必要事項〉

- ①部門
- ②題名(ふりがな)
- ③氏名(ふりがな)
- ④連絡先(住所、電話番号、メールアドレス)
- ⑤年齢
- ⑥撮影時期・場所
- ⑦作品への想い
- ⑧コンクールを知ったきっかけ
- ⑨撮影機材等の情報(カメラ・レンズ機種など)

浅川流域

日野市と八王子市を流れる「浅川」を流域単位としてとらえ、治水、利水、水質、水辺の保全、活用をキーワードとして連携を図ることで良好な流域の水辺環境を創出し、心豊かな流域のまちづくりを目指すことを目的としています。

事業初年度の平成23年11月6日に、八王子市学園都市センターで「浅川流域『川の恵み』シンポジウム」を開催し、当時の日野市長、八王子市長、両市の子どもたちにより「八王子市・日野市流域連携共同提言」が出されました。

浅川の清流で遊ぼう



自然の中で、川は楽しい遊び場・学習の場です。生きものの観察・水遊びなど、たくさんの楽しい活動ができます。

けれど、川には見えない危険がひそんでいます。八王子市の子どもたちとルールを守って、安全に水遊びを楽しみながら、私たちの暮らしと水の関わりや生きもののつながり、身近な水環境の大切さを学んでみましょう。

実施要項

対象 市内在住の小学4・5・6年生

日時 8月9日(水) 午前8時30分～午後4時頃
船森公園(京王八王子駅周辺) 集合・解散

会場 夕やけ小やけふれあいの里(八王子市上恩方町) 貸切バスで移動します

定員 10名(抽選)

費用 無料

申込 期限：7月14日(金)

方法：住所、氏名(ふりがな)、学年、性別、電話番号を記載してメール又はFAXで緑と清流課へ

注意事項 天候や川の状況により内容が変更になる場合があります。
詳細は市のホームページでご確認ください。



〈イベントの様子〉



問い合わせ先 日野市 緑と清流課

(TEL 042-514-8309 FAX 042-581-2516 E-mail seiryu@city.hino.lg.jp)

気候市民会議

令和4年(2022年)11月6日、日野市は気候変動が危機的な状況にあることを認識した上で、積極的な地球温暖化対策に取り組む意思を示す「日野市気候非常事態宣言」を発出しました。

この宣言では気候変動について市民・地域・行政、あらゆる主体が学び、考える機会を設け、諸力融合による地球温暖化阻止の対策へ挑む強い意志を明文化しました。



日野市気候非常事態宣言
 ~ゼロカーボンシティHINO 持続可能な未来を実現します~

今、私たちが暮らす地球は、温暖化により気候変動の深刻な影響を受け、すべての生き物の生活環境として危機的な状況にありまます。

温暖化は、私たち人間の活動により発生していることが明らかになっていきました。人間による影響がすべてでなくなったとしても、今までの積み重ねによる温暖化は止まりません。私たちが取るべき対策を今すぐ決めるべきだと危機感を感じています。

2019年の国連COP24では、多くの市民が温暖化を止めたい、気候危機を一刻も早く解決し、直ちに多岐にわたる気候変動対策を講ずるよう求め、私たちが暮らす地球の未来を憂い、国際的な気候変動対策を推進するよう求めました。私たちが気候危機という大きな課題に立ち向かっています。

この非常事態を切り抜け、次の世代、さらにその先の未来の世代まで守りつづけることのできる未来を創るためには、私たち市民と行政の協働による気候変動対策の推進が不可欠です。持続可能な未来の実現に向けて、今すぐ行動を起こさなければなりません。

日野市は、ここに「気候非常事態」を宣言し、2050年二酸化炭素排出量実質ゼロを目指して、持続可能な未来を実現するために、以下の取組を行います。

- あらゆる機会を利用し、気候危機が日常事となる段階にまで達していることを広く知らせ、国民の共感を呼びます。
- 二酸化炭素に代表される温室効果ガスの排出量削減を加速するため、市所管施設における再生可能エネルギー等の積極的な導入・活用を推進します。
- 気候変動について市民・地域で学び考える機会を設け、諸力融合によって地球温暖化阻止の対策へ取り組みます。

令和4年(2022年)11月6日
 日野市長 大坪 孝彦

緩和とは? 原因を少なく
2つの 気候変動対策
適応とは? 影響に備える

緩和策の例
 節電・省エネ、エコカーの普及、再生可能エネルギーの活用、森林を増やす、温室効果ガスを減らす

適応策の例
 感染症予防のため虫刺されに注意、熱中症予防、災害に備える、高温でも育つ農作物の品種開発や栽培、水利用の工夫

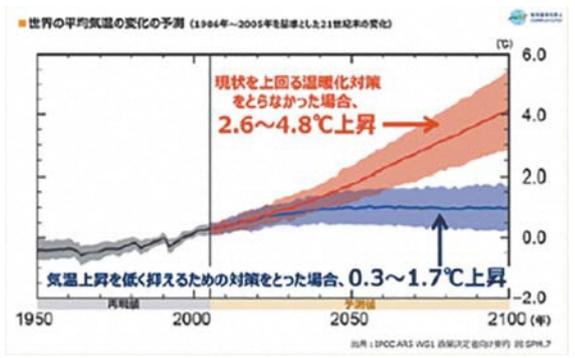
地球温暖化問題は特定のだけかだけに影響するものではありません。日野市民、日本国民、世界中の人間、世界中の人間に影響する問題です。この地球温暖化問題の対策には、原因である温室効果ガスを減らす「緩和」と、気候変動による様々な悪影響を軽減する「適応」の二つの柱があります。

国民、世界中の人間、世界中の人間に影響する問題です。この地球温暖化問題の対策には、原因である温室効果ガスを減らす「緩和」と、気候変動による様々な悪影響を軽減する「適応」の二つの柱があります。



な悪影響を軽減する「適応」の二つの柱があります。私たちは今まで、節電や省エネ、公共交通の利用など二酸化炭素を排出しない「緩和」に取り組みできました。地球温暖化の進行を抑えるためには、温室効果ガスを出さない、または出てしまう二酸化炭素を植物に吸収してもらう「緩和」が最も大切です。なぜなら、温室効果ガスを削減しなければ今以上に気温が上昇してしまふからです。しかし、温室効果ガスの削減・緩和が達成できたとしても、今すぐ

に気温が下がるわけではありません。今後何十年かに渡って、緩やかに効果が現れてきます。したがって、現在のよ様な温暖化が進行してしまっている状況に対応し、今ある悪影響や今後現れる悪影響に「適応」して影響の軽減を図ることに取り組みなければなりません。「適応」、何だか難しいことをするのか、と感じてしまうかもしれません。実は既にみなさんがふだんから行っていることにも「適応」はあるのです。外出するときは帽子をかぶる、これまでに水分補給をする。これ



に気温が下がるわけではありません。今後何十年かに渡って、緩やかに効果が現れてきます。したがって、現在のよ様な温暖化が進行してしまっている状況に対応し、今ある悪影響や今後現れる悪影響に「適応」して影響の軽減を図ることに取り組みなければなりません。「適応」、何だか難しいことをするのか、と感じてしまうかもしれません。実は既にみなさんがふだんから行っていることにも「適応」はあるのです。外出するときは帽子をかぶる、これまでに水分補給をする。これ

は熱中症対策ですが、これも立派な「適応」なのです。身近な熱さ対策・工夫で「適応」していくことが大切です。

2023年、日野市は「緩和」と「適応」、地球温暖化対策として私たちに何ができるのか、日野市という地域で、「自分たちには何ができるか」、「自分ごととして取り組むことのできる行動とは何か」を考える「日野市気候市民会議」を開催します。

参加者は、無作為抽出によって選ばれた16歳以上の日野市民から日野市の年齢構成・性別等に近づくよう考慮して40名を抽選し、決定しております。会議の内容については、日野市のホームページ上で公開する予定となっております。第1回目の気候市民会議は、8月6日に開催されます。

地球温暖化に対してどのような学びを得て議論しているのか、どんなことを参加者は考えたのか。内容にご興味のある方は、日野市ホームページをご覧ください。





市内一斉清掃は自治会、学生ボランティア等、様々な団体の方々にご協力をいただいております。今回はコロナ流行後、初めて行

春の市内一斉清掃

市では、「日野市みんなでまちをきれいにする条例」に基づき、毎年5月(春)と11月(秋)の最終日曜日を「市内をみんなできれいにする日」としています。今回は、18,000名を超える方々にご参加いただき「まちをきれいにする」意識がとても高まっているのだと感じました。

令和5年度 春の一斉清掃

参加団体(組)	293	収集量 (kg)	可燃	27,490
参加人数(人)	18,800		不燃	480

動制限のない中実施され、これまで参加を見合わせていた自治会、



事業者からも多くの方にご参加くださいました。

また、実践女子大学の学生さんも地域の清掃のお手伝いをしていただくなど、学生さんの姿も戻りつつありました。

今回は、令和5年11月26日(日)に秋の市内一斉清掃を予定しています。引き続き、ご協力をお願いします。

【環境保全課】

イエローチヨーク作戦

協力者 募集中!



イエローチヨーク作戦は、路上(私有地を除く)に放置された犬のフンの周囲を黄色いチヨークで丸く囲み、その横に発見日時を記すことにより、飼い主に自主的なフンの回収を促す取り組みです(左写真参照)。

市では効果を調べるため、およそ1年前に検証期間を設け、広報等で募集した協力者の方に取り組んでいただきました。その際のアンケート結果をふまえ、一定の効果が見られたことから現在、本格的に事業として導入していきます。路上に放置されてしまう犬のフンでお困りの方、イエローチヨーク作戦にご興味のある方、ぜひ作戦の実施にご協力ください。



受付窓口

日野市役所3階6番環境保全課
(※郵送対応可)

問い合わせ

日野市環境共生部環境保全課
042-514-8298 (直通)



清流ニュースにひとこと

清流ニュースに、「こういう記事を書いて欲しい!」や「こんなイベントを企画して欲しい!」など、皆さんからのご意見・ご要望を募集したいと思います。次号以降の清流ニュースの編集の参考にさせていただきます。

宛先

(お手紙、FAX、メール等でお願ひします)
日野市役所 環境共生部 緑と清流課
清流ニュース担当宛て
〒191-8686 東京都日野市神明1-12-1
FAX 042-581-2516
メール seiryu@city.hino.lg.jp

令和5年度 日野市合同水防訓練を実施しました

令和5年5月20日(土)、豊田児童グラウンドにて、市防災安全課が主体となり、消防署との合同水防訓練を実施しました。訓練には、日野消防署や日野市消防団をはじめとする多くの関係機関にご参加いただきました。

当日は雨が降っており、終始不安定な天候でした。見学された方々にとっては少しばかり都合が良くなかったかと思いますが、水防訓練という観点からは、本番さながらのリアリティがあり、主催側としては有意義に実施できたのではないかと実感しています。訓練内容は、シナリオに沿っ



市長・消防署長・消防団長による訓練開始報告の様子



化学機動中隊出動の様子

て進められ、風水害を想定した救出・救助演習を行いました。シナリオは、市道路課のパトロール車が市内を巡回中に、土砂災害によって倒壊している家屋を発見し、市の災害対策本部へ通報、後に消防署へ伝達され、消防署の職員(化学機動中隊及び水防指揮隊)と消防団が出動し、中に取り残されている住民を救助するという流れでした。

化学機動中隊とは、現場付近で感知されたガスや毒物を特殊な防護衣を着用して処理するという役割を担っています。これにより、次に人命の救助活動に当たる水防指揮隊が安全に出動できるようにな

ります。

倒壊家屋の救助活動が続く中、市道路課のパトロール車は次に、浅川の越水危険箇所を発見します。浅川からの越水を防ぐため、市職員や消防署、消防団が協力し、水防工法訓練を行いました。また、水防工法訓練には、市民の方々にもご参加いただきました。

水防工法とは、様々な方法がありますが、主に土嚢を積み、水の流れを防ぐことを目的としています。今回、訓練の中では、最も基本的な工法である①積み土嚢工法、積み土嚢工法に防水シートを活用した②改良積み土嚢工法、鋼板を並べ、土砂と支柱で強固



市職員と市民による水防工法作成の様子

な防水柵とする③鋼板防護工法、折り畳み式の水嚢に水を流して作る④連結水嚢工法を実施しました。

他にも種類がたくさんあり、中には身近な物で作ることができる工夫もあります。興味がある方は是非、調べてみてください。

今回の訓練は、各種水防工法の完成とともに終了となりました。上記に挙げた関係機関の他にも、自衛隊や災害対策協力会、災害時支援ボランティア、消防少年団の方々、隣で開催していた広報展示では、南多摩西部建設事務所や京浜河川事務所、東京地方協力本部等、多くの方々にご参加いただき、全体を通して有意義な訓練とすることができました。

終わりに、日野市には多摩



①積み土嚢工法



②改良積み土嚢工法



③鋼板防護工法



④連結水嚢工法

川・浅川という2つの大きな一級河川が横断しており、平時には清涼感のある風景を創出しています。しかし、ひとたび台風等が発生すると、浸水被害や土砂災害等が起こる危険性が潜んでいます。これらの災害が起こる前に、日頃からの備えを心掛け、有事の際には落ち着いた行動が取れるようにしましょう。

日野市防災安全課



● **日枝神社西公園** (街区公園172)

所在地…東豊田1-1-20 / 面積…294㎡ / 開園日…平成17年4月1日

東方に見える日枝神社は、川辺堀之内村の神社です。

伝承によれば、江戸時代の初めに村民の安穩祈願のために創建されたと言われています。

かつてこのあたりは、川辺堀之内の字林際と言われた所で、昭和47年7月1日の町名地番の変更により東豊田1丁目になりました。

● **駒形公園** (近隣公園27)

所在地…川辺堀之内先 / 面積…17,889㎡ / 開園日…昭和49年4月1日

〈参考〉浅川の旧堤防



(C) 2017 PASCO CORPORATION.
(C) 2017 INCREMENT P CORPORATION.
いかなる形式においても著作権者に無断でこの地図の全部または一部を複製し、利用することを固く禁じます。

浅川が蛇行するこの付近には、かつて、川の流れに対して斜めに突き出した堤防が築かれていました。これは川の流れを緩め、決壊を防ぐ工夫であったと考えられ「信玄堤」とも呼ばれていました。

日野市域の人々は、川の恵みを受けて暮らしてきた一方で、様々な治水技術を用いて、私たちの生活を守ってきました。

スクリーン点検

スクリーン点検と聞いて何を想像しますか？映写幕だろうか？いろいろと想像できるかもしれません。

緑と清流課におけるスクリーンとは、水路が開渠から暗渠（水が流れているのが見える構造からトンネル形式）に変わる手前の上流側に設置しているゴミ受けのフォーク形状のものをいいます。

市内で日常的に点検を行っているスクリーンは約80箇所あります。水路清流係職員は、この80箇所を通過しつつ、できるだけ水路に沿うような一筆書きのコースを設定し、毎週金曜日に点検及び清掃行っています。また、台風や大雨の影響がある時は、降雨前後に点検しています。

点検は、ゴミや水草が引っかかって水の流れを阻害していないか？農業用水としての水量は十分に供給できているか？護岸の変状や異常の有無を確認しつつ、職員の手作業でゴミや水草をトラックに積み込んで回収していきます。



スクリーン点検の様子

落川公園に設置されているスクリーン



点検後

点検前

点検での総移動距離は約50キロメートル、ゴミ類は総重量100から300キログラムほどになります。

さて、このテーマの本題、点検で回収するゴミや水草ですが、特に自然物ではないゴミ、飲み物の空き容器、ビニール袋類が目立ちます。ポイ捨てと思われるものもありますが、家庭におけるゴミ出しの際に風で飛ばされた容器、袋類も多いのではないかと推測しています。みんなでもっと気をつければ、用水、川、海がもっと美しくできると思います。

日野中央公園に インクルーシブ 遊具を 設置しました

工事の経緯

日野中央公園（神明二丁目13番2）にインクルーシブ遊具を設置する工事を行いました。日野市内の公園にインクルーシブ遊具が設置されるのは日野中央公園が初となります。インクルーシブとは「すべてを包みこむさま」を表す言葉で、インクルーシブ遊具は性別・国籍・障害の有無などに関わらず、だれもが遊べる遊具を指します。どんな子でも一緒に、安全に楽しめる遊具として注目が高まっており、近年全国的に設置が進められています。日野市においては令和4年（2022年）に第二次日野市ユニバーサルデザインまちづくり推進計画が策定され、この中で日野中央公園でのインクルーシブ遊具の設置とバリアフリー化が位置づけられました。

今回の工事では、どんな人でも使いやすい公園づくりを

目的として、遊具の設置のほか、園路の段差等解消、出入口の点字ブロック整備やユニバーサルデザイン対応の水飲み器の設置などのバリアフリー化をあわせて行いました。工事を進めるにあたって、様々な方の意見を聞きながら整備内容を決めるために、発注までにワークショップを3回開催しました。メンバーは遊具の主な利用者である3歳から12歳までの子どもたちの保護者、幼稚園・保育園の園長、PTAなどから構成され、それぞれの立場からより良い公園を目指して意見を出し合いました。ワークショップでは参加者と実際に公園を見てから意見交換を行いました。参加者の方々から多くの意見・質問が出され、公園整備に対する関心の高さが感じられるとともに、様々な立場の方から意見を伺うことの重要性を再確認しました。意見交換で得られた参加者の声を反映させた整備案を作成し、整備案を元に再度意見交換を行った後、整備内容を決定しました。

工事後の様子

工事は令和5年1月に始まり、同年4月にしゅん工、5月に遊具広場の利用を開始しました。ワークショップの結果を踏まえ、介助者と一緒に滑ることが出来る幅の広いすべり台を備えた複合遊具と、ベビーチェア型と円盤型の2種類の座席を備えたブランコを設置しました。日野中央公園には既設のすべり台とブランコがありますが、同じ遊具でも種類が増えたことで各自にあった遊び方を自由に選べるようになりました。

新設した遊具の中では円盤型ブランコが特に好評です。一人で座ることが難しい子どもでも寝転がって遊べるほか、保護者や友達と複数人で一緒に楽しむことも可能です。円盤型の座席は大人も乗れるサイズですので、市役所にお越しの際は日野中央公園にも足を運んで、ぜひ体験してみてください。

遊具の他にも、背もたれ付き、屋根がついたタイプ、幅の広い縁台タイプなどベンチの種類や数も増えています。遊具を利用されない方も、ベンチに腰をかけゆったりと過ごしてみたいかがでしようか。



右：複合遊具
ブランコ右：ベビーチェア型
ブランコ左：円盤型



(C) 2017 PASCO CORPORATION.
(C) 2017 INCREMENT P CORPORATION.
いかなる形式においても著作権者に無断でこの地図の全部または一部を複製し、利用することを固く禁じます。

あとがき

7月を迎え、早いもので2023年も折り返しとなりました。今年の大きなニュースといえば、5月に新型コロナウイルスの感染法上の分類が第5類に移管されたことでしょうか。気づけば新型コロナウイルスの発生から3年余りの月日が経過していました。発生当初はまだ学生だった私も社会人となり時の流れを感じています。世間では様々なイベントが開催されていて、コロナ前の日常が戻りつつあります。

さて、日野市でも様々なイベントが開催する予定です。その中でも10月には小中学生が夏休みに描いてくれた緑と清流ポスターと用水路に生息している魚を採取してミニ水族館を展示する予定です。日野市役所本庁舎にて展示する予定です。お近くにお越しの際はぜひお立ち寄りください。

以上が新人職員による拙いあとがきでした。今後とも清流ニュースをご愛読いただきますよう、よろしくお願いたします。